

アフリカ・エコレース

在モーリタニア日本国大使館

2019年1月6日から同12日まで、「アフリカ・エコレース」参加選手達が砂漠の国モーリタニアでしのぎを削り合いました。アフリカ・エコレースは、2008年にパリ・ダカール・ラリーが政情不安により開催中止となり、その後、南米に開催地を移した後に、「パリダカ」ファンやラリー開催国からのパリダカ復活を望む声に応じて、2009年より毎年開催されているラリーレイド大会です。同大会は、モナコをスタート地とし、その後船での移動を経てモロッコ、モーリタニアを通過し、セネガルのダカールをゴールとするかつてのパリダカを彷彿とさせるラリーで、総走行距離は約6,500キロにも及びます。アフリカ・エコレースの特長は、環境面と安全面に対する配慮です。キャンプ地やコースは都心部から離れているため安全であり、電力の使用量も抑えられます。また、安全なコースとすることで、途中で車が故障して、砂漠を汚染することを防ぎます。さらに、出場選手の食料を現地調達とすることで、開催国の経済にも貢献します。

第10回大会となったアフリカ・エコレース2018には、世界ラリー選手権とパリ・ダカール・ラリーで日本人初の優勝者となった伝説のドライバー篠塚建次郎氏が参戦し、見事完走しました。1997年に、三菱パジェロでパリダカを総合優勝し一世を風靡した篠塚氏は、「生涯現役」を掲げ、2008年より、ソーラーカー・レースに活躍の舞台を移し、2018年11月に70歳の誕生日を迎えた今もなお現役で活動を続けています。パリダカ総合優勝から約20年。「ライトニング・ケンジロー」が、サハラ砂漠への熱い思いを胸に、日本から遠く離れたモーリタニアの砂漠の地を駆け巡りました。

(関連情報)

アフリカ・エコレース HP : <https://www.africarace.com/en>